

「令和7年度 設計・現場監理・施工の勘所」質問・回答集

横浜市建築局建築防災課

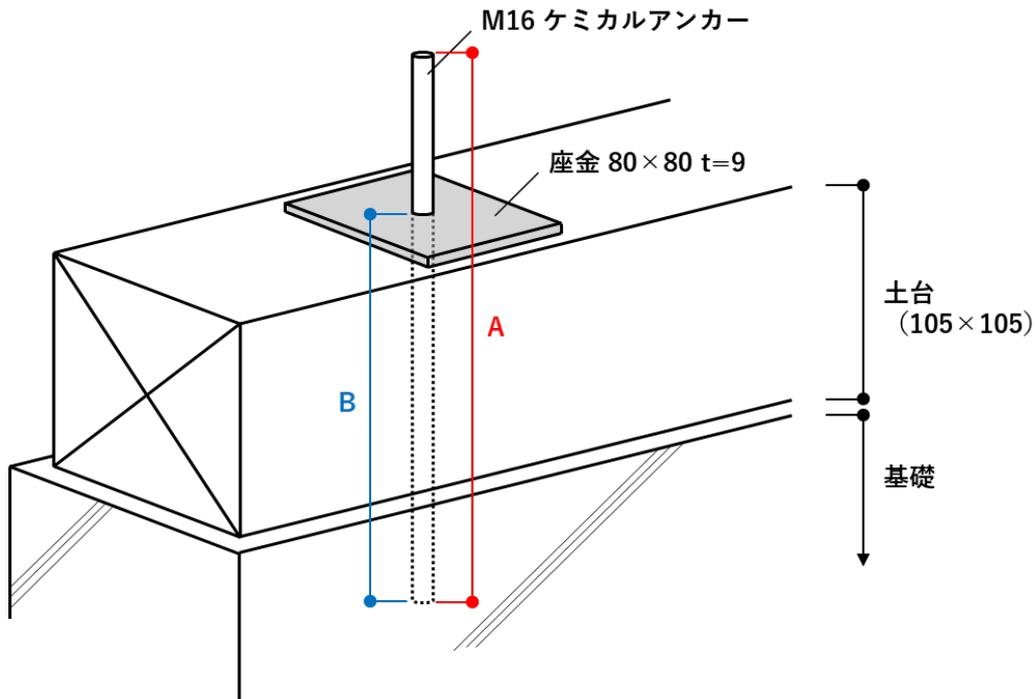
令和7年11月14日に開催いたしました「横浜市木造住宅耐震改修促進事業 設計・現場監理・施工の勘所」につきまして、講習会中及び講習会終了後にいただきましたご質問に対する回答を掲載いたします。

Q1. 講習会スライド資料 26 頁「4 隅の金物をアップで撮影した写真は必須ではありません。」とあるが、筋かい設置状況が分かれば、筋かい上下の金物が映っていないでも良いか。土台のアンカーボルト、柱頭柱脚金物も同様か。

A1. 筋かい金物・土台のアンカーボルト・柱頭柱脚金物はいずれも、工事監理者により、また検査で正しく設置されていることが確認できていることを前提として、完了時報告書類として市に提出する写真については、映っていないでも可としています。

Q2. 講習会スライド資料 63 頁「座金とアンカーボルト」について、

- ① A (下記図面参照) の長さは何の程度のものを採用するのが適切か。
- ② B (下記図面参照) の長さは何の程度が適切か。



A2.

- ① 用意するボルト長は 350 mm程度が適切です。施工後の長さはケミカルアンカーの規格書による穿孔深さ（130～140 mm位）、土台の寸法、緩み止めワッシャーの厚みにより変化します。

具体的な施工の流れは、以下のとおりです。

1. 使用するケミカルアンカーの規格書に従い、下穴（穿孔）径を確認し、その径のコンクリート用・木工用のキリを用意する。
 2. 既存の土台に用意した木工用キリで穴を開けてから、基礎にコンクリート用キリで規格書に定める穿孔深さの穴を開ける。
 3. 孔内を清掃した後に、ケミカルのカプセルを挿入して長さ 350 mm程度のボルトを埋め込み養生する。
 4. 硬化養生後に座金、緩み止めワッシャーをナットで 70 N・m 程度のトルクで締め付ける。飛び出しているボルトはそのままでもよいが、切断する場合は ねじ山を 3 山以上（15 mm程度）確保する。
 5. 締め付け方向に 10～30° 程度 追い締めを行う。
- ② B の長さは、ケミカルアンカーの穿孔深さ（規格書による）+土台の高さとなります。

Q3. 講習会の中で「川の字打ちによる構造用合板補強の際に、間柱が 30 mm程度の場合、そのまま釘を打つと間柱が割れてしまう可能性があるため、脇に 45 mm角の部材を抱かせて施工する」とあったが、既存の間柱と脇に抱かせる 45 mm角の部材の固定はどうすれば良いか。

A3. ビスで良いです。ビスの種類の規定もありません。